

米国 果実の生産見通し(モモ、甘果オウトウ、アンズ、ブドウ、ブルーベリー)

米国農務省経済調査局 2025年7月24日

これは、米国農務省経済調査局の「果実及びナッツ類の見通し 2025年7月」の非柑橘類果実の項(一部省略)を訳したものです。文中の「トン」はショートトン(米トン)であり、1ショートトン＝約907.2kg、1ポンド＝約0.4536kg、1エーカー＝0.4046ヘクタールです。

非柑橘類果実の見通し

<モモ> カリフォルニア州の2025年の生産量は増加の予測

カリフォルニア州は米国最大のモモ生産州であり、米国の2024年の生産量の75%、生産額の64%を占めた。農務省農業統計局(NASS)の2025年5月の「作物生産見通し」では、同州の2025年のモモの予想生産量は55万トンで、2024年より4%多く、過去3年間の平均より11%多い。カリフォルニア州のモモは、離核種と粘核種に分類される。仮に粘核種(23万トン)と離核種(32万トン)の2025年の生産量が予測どおりになれば、6年連続で離核種の生産量が粘核種を上回ることとなる(図1)。農業統計局は、同州とその他6州について、8月の「作物生産見通し」でモモの生産予測を公表する予定である。

図1 カリフォルニア州の粘核種・離核種別のモモの生産量 1991年～2025年予測値



F=予測値

出典：農業統計局「Quick Stats」及び「非柑橘類果実及びナッツ類の最終推計値」(各年)のデータに基づき経済調査局が作成

カリフォルニア州の粘核種：カリフォルニア州の離核種のモモの約4分の3は生鮮市場向けであるが、粘核種のモモはほぼ全量が加工市場(主に缶詰と冷凍)向けに生産されている。粘核種のモモは果肉が硬く、缶詰の製造過程でのくり抜きや熱処理に耐性のあることが特徴である。

粘核種のモモは、離核種のモモよりも収量が高く、価格が安い傾向がある。カリフォルニア州の粘核種の結果面積は2004年に3万2千エーカーで最大に達した後は次第に減少し、2024年には合計1万4千エーカー未満となった。なお、カリフォルニア州の離核種の結果面積も2000年代初頭から減少したが、2017年の低水準(2万1千エーカー)から2024年には2万5千エーカーへとわずかに増加した。

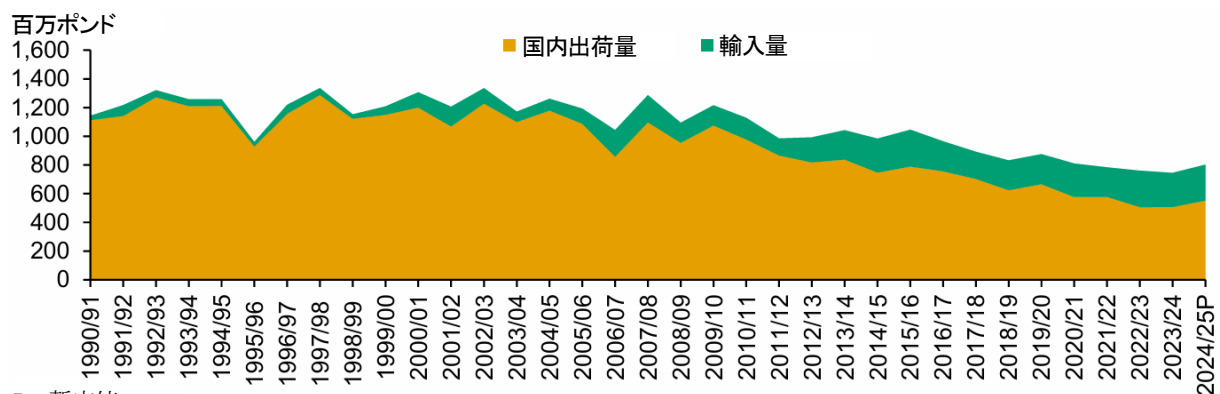
農務省農業統計局の5月の「作物生産見通し」では、カリフォルニア州の粘核種のモモは昨年に比べて1千トン(0.4%)の減少が見込まれている。業界からの複数の報告は、今シーズンの同州のサクランボと同様に、一部の粘核種の果樹園で着果が不均一であったことを指摘している。しかし、特に昨シーズンの夏の高温に比べれば、今年の6月の気温は比較的穏やかであり、果実の生育を支えた。カリフォルニア州の粘核種のモモの収穫は通常、6月下旬または7月上旬に始まり、9月上旬まで続く。2025年7月初旬現在、業界の協同交渉団体であるカリフォルニア州缶詰用モモ協会(CCPA)は、2大加工業者のうちの1社と2025年の基準価格協定についてまだ交渉中であった。

モモ加工業者への毎週の納入量のシーズン累計トン数は、通常は8月初旬までに中間点に達する。カリフォルニア州食品製造業者連盟(CLFP)の報告書によると、2025年7月の第2週終了時点で、カリフォルニア州の粘核種のモモの出荷量は合計約1万3,600トンで、昨年の同時期に比べて36%多い。同連盟の2025年地区別推定値によると、この数字は、モモ加工業者へのシーズン中の予想総納入量(22万4,383トン)の

6%に相当する。CCPAによると、国産の缶詰及びプラスチック容器入りのモモ(フルーツカクテル等のミックスフルーツ製品を含む)のほぼ全量がカリフォルニア州で製造されている。

モモ缶詰の輸入: モモ缶詰の国内出荷量(総出荷量から輸出量を差し引いたもの)は過去20年間減少傾向にあり、輸入量は増加傾向にある。1990年代を通じて、モモ缶詰の輸入量は各販売年度8千万ポンド未満で、国内供給量の10%未満であった(図2)。過去3回の販売年度(2022/23年度~2024/25年度)では、モモ缶詰の輸入量は平均約2億5千万ポンドで、国内供給量の30%以上を占めた。モモ缶詰の国内供給量に占める輸入品のシェアが増加していることは、過去10年間の輸入量が比較的安定していることと、国内出荷量が減少していることを反映している。米国のモモ缶詰輸入量の80%以上は中国とギリシャから来ている。過去3シーズンのギリシャと中国からの輸入モモ缶詰はそれぞれ国内供給量の約13%を占めた。

図2 米国のモモ缶詰の国内供給量(製品重量¹)



P=暫定値

注: シーズンは分割表示された年度の第1年次の6月に始まる。国内出荷量=国内製造量-輸出品

¹ 国内製造量は国内の缶詰向け生果出荷量を製品重量に換算したもの。製品重量は、生果重量に1.2を乗じたものに等しい。2018/19年度以降は、缶詰製造量は加工品総製造量に占める構成比の5年平均(75%)に基づき推計。

出典: 農務省農業統計局及び商務省センサス局のデータを使用して農務省経済調査局が作成。

生鮮市場向けのモモ: カリフォルニア州の離核種の収穫は6月下旬に始まり、9月末まで続く。サウスカロライナ州及びジョージア州(カリフォルニア州に次いでモモの生産量が2番目及び3番目に多い州)では、収穫は5月に始まり、7月末までにほぼ終了する傾向にある。農務省農業流通局(AMS)の「市場ニュース」のデータによると、昨年はカリフォルニア州の早生品種(5月~6月)の生鮮モモの出荷が低調であったが、週別の出荷価格(FOB)は前のシーズンと同様であった。

クレムソン大学農業普及サービスの報告書によると、今年のサウスカロライナ州のモモの作柄は概ね平年並みの状態にあるが、雨が多く湿度の高い夏の天候のため病害の発生圧力が高まっている。農務省農業統計局は、2025年6月末時点でジョージア州のモモの作柄は収穫面積の81%が良好~非常に良好の状態であると報告しており、これは5年間の平均と同程度である。ジョージア州のモモの収穫は、2025年7月20日までに85%完了し、5年平均(83%)と同程度であった。今年の生鮮市場向けのモモの出荷シーズンについては、2025年9月公表の「果実及びナッツ類の生産見通し」でより深く論じる予定である。

<甘果オウトウ> ワシントン州の出荷量が増加の予測

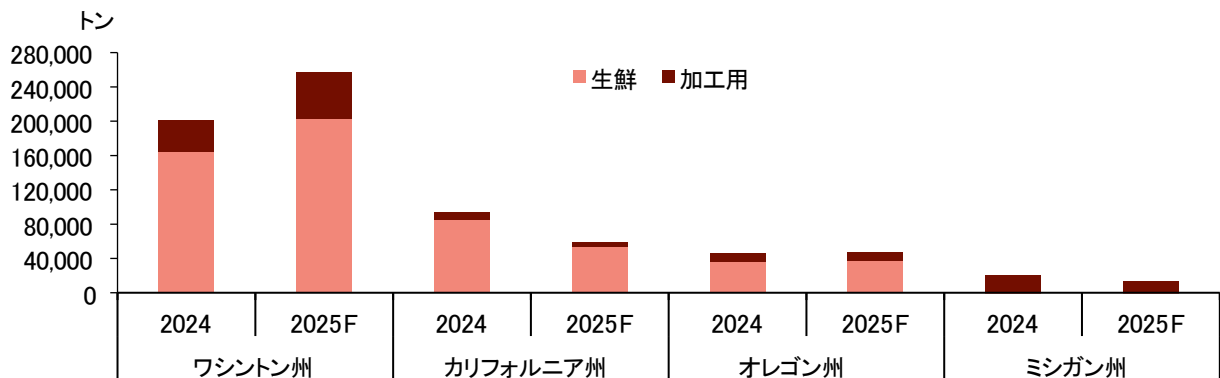
農務省農業統計局の6月の「作物生産見通し」では、調査対象4州における2025年のサクランボ(甘果オウトウ)の予測生産量は前年比4%増の38万3千トン(7億6,600万ポンド)であった。ワシントン州(29%増)とオレゴン州(4%増)の生産量の増加は、カリフォルニア州(38%減)とミシガン州(31%減)の減少を埋合せた。

トップであるワシントン州の甘果オウトウの予測生産量は、昨シーズンより5万8千トン多い26万トンで、過去8年間で最大となり、2025年の全米の甘果オウトウ生産量の68%を占めると予想されている。業界の報告によると、ワシントン州の果樹園では今シーズン、春の開花と初夏の生育条件が良好であった。7月初旬までの出荷量と価格の週間データも、収穫期間が短くなった2シーズン前と比較して、今年の需給状況が安定していることを示している。カリフォルニア州では、同州の甘果オウトウの約80%を生産するサンホアキン郡で、

収量が低下したと伝えられている。同郡の農業委員は、春の暑さと過度の降雨が収量の低下と作物の損失の要因であるとして、2025年5月初旬に甘果オウトウ生産者に対する災害宣言を(州政府に)要請した。

2024年の米国の甘果オウトウ生産額は合計8億1,700万ドルを超え、非柑橘類の生産額でブドウ、イチゴ、リンゴ、栽培ブルーベリー、モモに次いで6位にランクされた。今世紀になって以来、米国産甘果オウトウの大部分は生鮮市場に仕向けられてきた。昨年の甘果オウトウの生鮮市場向け出荷量は28万6,440トンで、総出荷量の約80%及び総出荷額の93%を占めた。カリフォルニア州、オレゴン州、ワシントン州では、甘果オウトウの大部分は価格の高い生鮮市場に出荷されている(図3)。対照的に、ミシガン州の甘果オウトウは従来から加工用に出荷されてきた。仮に4つの州がすべて従来からの用途に従った場合、2025年の米国の生鮮市場向け甘果オウトウの出荷量は合計約29万4千トンで、昨年より3%多くなる。

図3 甘果オウトウの大部分は生鮮市場に出荷



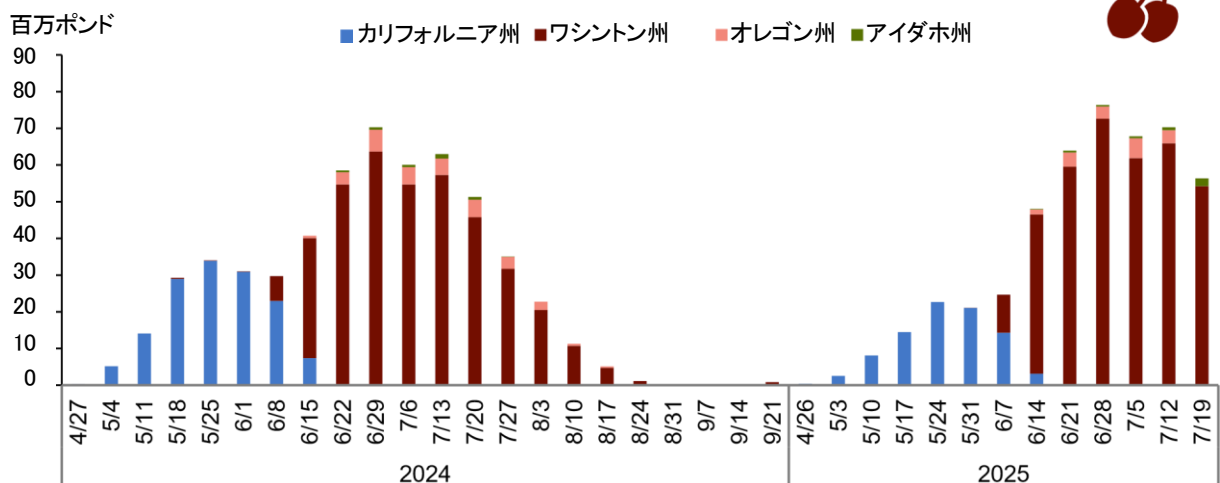
F = 予測値

注: 2025年の予測値は、生産量のうち生鮮または加工用として利用される割合が過去3年間(2022~2024年。ミシガン州は調査データの欠落により2016年、2017年及び2024年)の平均に等しいとの仮定に基づく。

出典: 農務省農業統計局「非柑橘類果実及びナッツ類概要」(各年)及び「作物生産見通し」(2025年6月)のデータを使用して経済調査局が作成

2025年の出荷予測: 西海岸の州における甘果オウトウの出荷のタイミングと数量は、毎年のも米国内の供給量と生産者価格に影響を与える。一般的に、カリフォルニア州の生鮮甘果オウトウの出荷は4月下旬に始まり、最大の生産州であるワシントン州の出荷量が増加する6月中旬に終了する。図4に、農務省農業流通局の「市場ニュース」に掲載された出荷データによる過去2シーズンの国内出荷量と産地の変動を示す。

図4 ワシントン州は7月の生鮮甘果オウトウの主要産地



注: 国内出荷量のみ

出典: 農務省農業流通局「市場ニュース」の出荷量データを使用して経済調査局が作成

2025年のカリフォルニア州の生鮮サクランボ出荷量を週単位に見ると、5月と6月を通して低調で、早生と晩生の品種が前年比での減少が大きかった。カリフォルニア州からの出荷量の減少により、5月から6月上旬にかけての平均出荷価格(FOB)が上昇した。

ワシントン州は、出荷シーズン初期の品種の少量の出荷を6月に開始し、カリフォルニア州産との重複は最小限であった。2025年6月から7月20日までのワシントン州産生鮮甘果オウトウの国内出荷量は、17%増加した。ワシントン州の生鮮甘果オウトウの出荷価格は、6月下旬から7月上旬にかけて季節的な下落が見られ、週別の価格は昨年よりは下がったが、2年前よりはわずかに高かった。

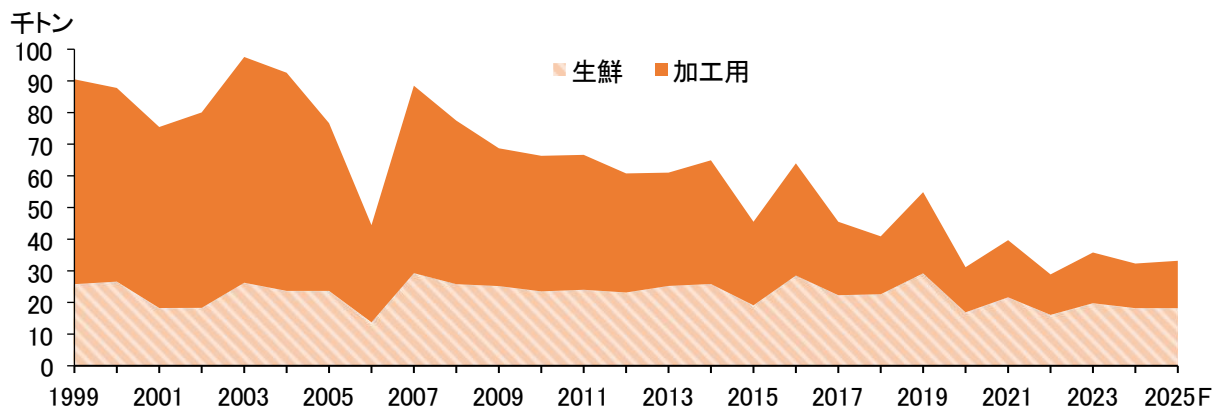
生鮮甘果オウトウの貿易：過去2シーズンには米国の生鮮市場向け甘果オウトウ出荷量の約30%が輸出された。2024年の米国の生鮮甘果オウトウの輸出量は合計1億8,470万ポンドで、2023年に比べて4%増加し、過去7年間で最大となった。甘果オウトウの輸出量の大部分(数量ベースで75%)は6月と7月に出荷された。有機甘果オウトウの輸出量は過去最高の1,550万ポンドに達した。これは生鮮甘果オウトウの総輸出量の8%に相当する。2025年4月から5月にかけて、出荷シーズン初期の生鮮甘果オウトウの輸出量は、カリフォルニア州の収穫量の減少を反映して数量で60%、金額で45%減少した。ワシントン州の2025年のシーズン開始からこれまで(6月1日～7月20日)の生鮮甘果オウトウ輸出量(ワシントン州農業局の報告による)は、主要輸出先であるカナダ、韓国、台湾及び日本向けでは前年同期比で増加したが、中国向けは減少した。

生鮮甘果オウトウの輸入量は、一般的に国内供給量の10%未満である。米国は国内産のシーズン以外に南半球の供給国であるチリとアルゼンチンから輸入しており、輸入量は冬の期間にピークに達する。2024年11月から2025年3月の間に、米国はチリから4,520万ポンド、アルゼンチンから580万ポンドの生鮮甘果オウトウを輸入し、これは同期間の総輸入量の98%を占めた。通常7月と8月に行われるカナダからの輸入は、2024年には合計100万ポンド未満であった(前年比92%減)。カナダからの甘果オウトウの輸入量の減少は、主にブリティッシュコロンビア州(カナダ)での冬の低温被害によるものであった。

<アンズ> 2024年の生産量は減少の予想

農務省農業統計局は、2025年の米国のアンズの生産量を昨年より10%少ない3万700トンと予測している。そのとおりになれば、2025年のアンズ生産量は2022年に次いで記録上2番目に少なくなる。アンズの主要生産州であるカリフォルニア州の生産量は、米国の総生産量の91%を占める2万8千トンと予想される。これは昨シーズンより16%(5,400トン)少なく、ワシントン州の前年比200%の増加を打ち消す以上のものである。昨年は、開花期の悪天候がワシントン州のアンズの収量に悪影響を及ぼした。生鮮及び加工用として利用される生産量の割合が過去7年間と同様であれば、米国のアンズ出荷量の約55%が生鮮市場に仕向けられると予想される(図7)。加工用に仕向けられるアンズの生産量とシェアは数十年にわたって減少傾向にあるものの、2018年から2024年の間はシェアが45%で安定している。

図7 米国のアンズ出荷量の用途別シェアは過去7シーズン安定



F = 予測

出典：農務省農業統計局のデータを使用して経済調査局が作成

<ブドウ> 2024年のカリフォルニア州の結果面積は減少

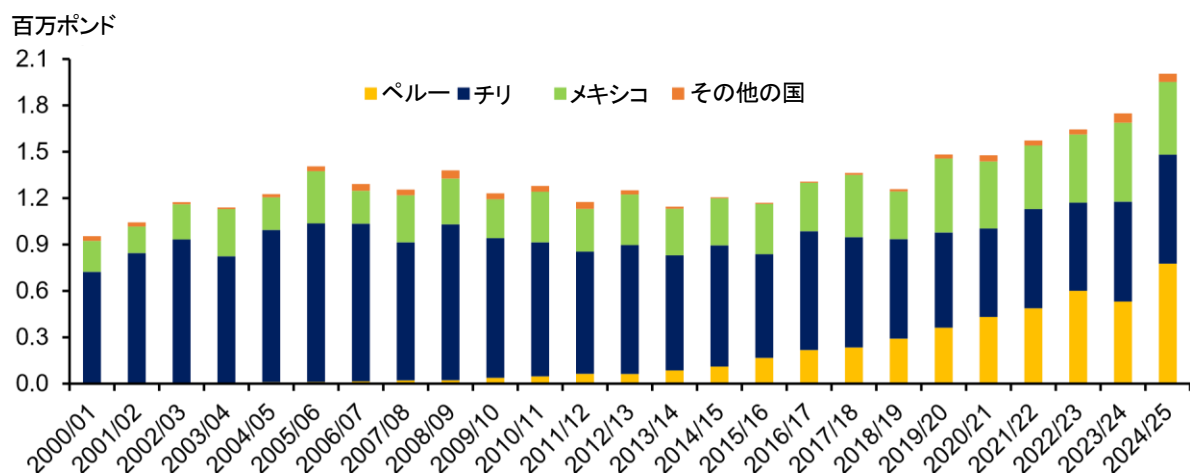
カリフォルニア州の2024年の醸造用及び生食用のブドウ栽培面積は減少：カリフォルニア州は米国最大のブドウ生産州である。カリフォルニア州のブドウ栽培面積の約70%は醸造用のブドウ品種に分類される。農務省農業統計局が2025年4月に公表した「カリフォルニア州ブドウ栽培面積レポート 2024年産」によると、2024年の醸造用ブドウの総栽培面積は、前年に比べて2万エーカー(3.3%)減少し、59万エーカーとなった。栽培面積のほぼすべて(93%に当たる55万エーカー)が成園、すなわち、通常商業的にかなりの量のブドウを生産することが期待される樹齢であったが、2018/19年度に記録された過去最高の59万エーカーを4万エーカー(7%)下回った。(醸造用ブドウについて以下省略)

生食用ブドウは、カリフォルニア州のブドウ栽培面積の約15%で生産されている。生食用ブドウの2024年の総栽培面積は、前年に比べて5千エーカー(4%)少ない12万エーカーであった。栽培面積の概ねすべて(96%に当たる11万5千エーカー)が成園であった。フレームシードレス(早生の種なし赤ブドウ)は、栽培面積において最大の生食用ブドウ品種であり、次いでオータムキング(晩生の種なし白(緑)ブドウ)、スカーレットロイヤル(中生の種なし赤ブドウ)が続いた。これら生食用ブドウのトップ3品種は、2024年のカリフォルニア州の生食用ブドウ栽培面積の推定28%を占めた。

2024/25年度の生食用ブドウの輸出入が増加：生食用ブドウの2024/25販売年度は2024年5月に始まり、2025年4月に終了した。2024/25年度の生食用ブドウの輸出量は前年比23%増の4億9,650万ポンドであった。ハリケーンヒラリーから変化した低気圧が2023/24年度シーズンに悪影響を及ぼしたカリフォルニア州では、生食用ブドウの収穫量が回復した。生食用ブドウの輸出は、2013/14年度にピークを迎えて以来、減少傾向にある。2024/25年度には、国内で生産された輸出用の生鮮ブドウのうち、3分の2がカナダまたはメキシコ向けに10年前の40%弱から増加したが、これは他国への輸出が減少したためであった。輸出されたブドウの約8%が有機認証を受けていた。

2024/25年度の生食用ブドウ輸入量は前年比15%増の20億400万ポンドで、初めて20億ポンドを超えた。2021/22年度以降、販売年度ごとに生食用ブドウ輸入量の新記録が更新されている。2024/25年度には、生食用ブドウ輸入量の約97%がペルー、チリ、メキシコの3カ国から輸入された(図10)。

図10 2024/25年度の生食用ブドウ輸入量は記録を更新



注：生食用ブドウ年度は、分割表示された年度の第1年次の5月に始まり、翌年の4月に終わる。

出典：米国商務省センサス局のデータに基づき農務省経済調査局が作成

ペルーとチリ(米国への生鮮ブドウ輸出国上位2カ国)からの生食用ブドウの輸入量は、チリの栽培面積の減少にもかかわらず、前年比で増加した。チリの生食用ブドウ生産は、隣国ペルーとの輸出競争が価格に下押し圧力をかけていることもあり、利益率が厳しくなっている。ペルーの生食用ブドウ生産量は、大雨と高温が収量に悪影響を及ぼした2023/24年度の後、2024/25年度には回復し、その結果米国の輸入量は前年比46%増で史上最高となった。2024/25年度のメキシコからの生食用ブドウ輸入量は、前年比9%減少した。

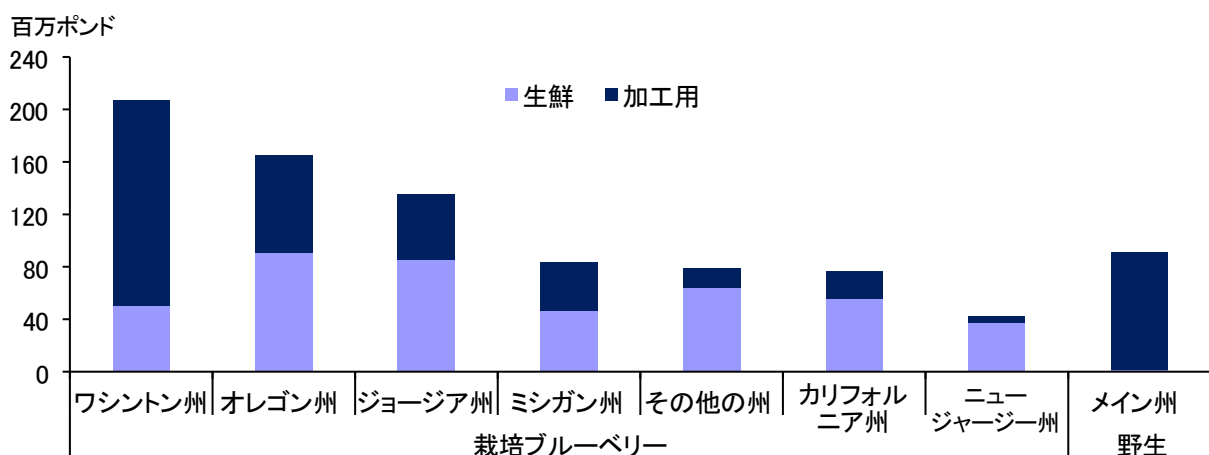
メキシコの生食用ブドウの80%以上はソノラ州で生産される。同州は、メキシコの北部国境に位置し、米国アリゾナ州の南に隣接する乾燥した砂漠の州であり、同州の収穫物の約90%は米国に輸出される。

2025/26年度の米国の生食用ブドウシーズン：農務省農業統計局は、2025年産ブドウの予測生産量を2025年8月に公表する予定である。それまでの間、同省農業流通局の出荷量データを用いると、カリフォルニア州の年初来7月中旬までの夏の出荷量は、昨年より1週間早く出荷が始まったにもかかわらず減少したことが示されている。生食用ブドウの出荷は、5月中旬に同州南部のコーチェラバレー地域で始まり、サンホアキンバレー地域では7月に始まった。業界の報告によると、両地域の出荷シーズン序盤のコンディションは良好であった。

＜ブルーベリー＞2024年の生産量が記録を樹立

米国の2024年のブルーベリー生産量は過去最高に：米国の2024年のブルーベリー総出荷量(栽培種及び野生種)は8億8,030万ポンドと推定され、2023年の7億2,570万ポンドから21%増加した。栽培ブルーベリーは7億8,950万ポンドで、国内出荷量の90%を占めた。米国産栽培ブルーベリーの約55%は生鮮市場に出荷された(図12)。ブルーベリー出荷量の上位3州はワシントン州、オレゴン州、ジョージア州であり、これらの州の合計で栽培ブルーベリー出荷量のほぼ3分の2を占めている。メイン州から出荷された野生のブルーベリーは、総出荷量の10%に当たる9,080万ポンドを占めた。米国産の野生ブルーベリーのほぼ全量は、冷凍を主体とする加工用に仕向けられた(図12)。

図12 2024年産栽培ブルーベリーの大部分は生鮮市場に出荷
野生ブルーベリーはほぼすべて加工用



注: 「その他の州」はフロリダ州及びノースカロライナ州

出典: 農務省農業統計局のデータに基づき同省経済調査局が作成

2025年の米国のブルーベリーシーズン：米国内のブルーベリーの90%以上は4月から8月にかけて出荷され、最盛期は通常7月である。2025年7月中旬までの農務省農業流通局の出荷データによると、国内の生鮮ブルーベリーの出荷量は前年同期を下回った。ジョージア州とフロリダ州からのブルーベリー出荷量は前年同期比で減少した。業界の報告によると、米国南東部の気象現象が今年のこの地域のブルーベリー収穫量に悪影響を及ぼした。涼しい天候と降雨により、収穫の開始が遅れた。

カリフォルニア州では、同州南部のオックスナード地域でブルーベリーの出荷が2月に始まり、3月中旬から4月上旬にかけて最盛期を迎えた。同州のセントラルバレー地域では、出荷の最盛期は5月に始まり、6月中旬まで続いた。太平洋岸北西部(PNW)のブルーベリーの出荷シーズンは6月に始まり、オレゴン州とワシントン州では7月中旬まで生鮮出荷量が少なかった。業界の報告は、良好な気象条件が春の受粉を促進したことで、この地域のブルーベリーの出荷シーズン序盤の品質が優れていたことを示している。